

【セッション I】

『農村』であることの保全とは？ーグローバル化された都市的世界のなかのグリーンツーリズム」

北野収（獨協大学教授）

近年、経済生産および社会生活の営みにおける空間的側面が、地域開発や農村開発に関心を有するプランナーや社会学者の間で認識されるようになってきた。地域づくりの実践において、プランナーとコミュニティは空間と場所の矛盾に向き合わざるを得ない。本研究は、群馬県農村部の6つの地域での住民インタビューに基づき、政府も支援したグリーン・ツーリズムや村おこしの取組みの限界を批判的に検討した。はたして、グリーン・ツーリズムは地域開発のオルタナティブあるいはポストモダンなのだろうか。本研究で導き出された結論は、立地や資源賦存面における特権的な地域は、農村景観の維持と経済面での活性化を両立することに成功したが、批判的空間論に鑑みればこの成功を安易に一般化することはできない、ということである。これは社会的構築物としての農村景観論という有名なアーリの「まなざし」のテーゼに矛盾しない。あえて付言すれば、グローバル化が進み農村コミュニティが危機に瀕している状況において、「まなざし」を獲得できない村は、農村らしさを維持することができず、そればかりか地域コミュニティの存続すらままならない、という現実である。